

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 6	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol, smoking, and physical activity related to respiratory infections in elderly people. 高齢者の呼吸器感染との関連から見たアルコール、喫煙、および身体活動	
執筆者	
Van der Horst Graat JM, Terpstra JS, Kok FJ, Schouten EG.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Nutr Health Aging. 2007 Jan-Feb;11(1):80-5.	
キーワード	
高齢者、呼吸器感染、生活習慣、アルコール、身体活動、喫煙	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>高齢者は呼吸器感染症に罹患しやすくまた合併症の危険性も高い。これは免疫系の老化による易感染性によると考えられる。しかし生活習慣因子が感染症の危険に関与しているのであれば公衆衛生的に大きな意味を持つ。我々は高齢者におけるアルコール消費、喫煙、身体活動と急性呼吸器感染症との関連について検討した。</p> <p>方法：</p> <p>研究デザイン：前向き観察分析。時期：1998年9月から2000年6月まで。場所：オランダ、ワゲニンゲン地方。対象者：施設に入所・入院していない比較的健康な高齢者（60歳以上）652人。測定・評価方法：妥当性が示された標準化質問票を用いて調査開始時の生活習慣の諸因子を評価した。1998年から2000年にかけて自己報告による呼吸器感染症を看護師による電話・家庭訪問にて、一部の群では微生物学的検査にて、評価した。</p> <p>結果：</p> <p>443人の対象者に1024例の急性呼吸器感染症が見られた。全体の発症率は1.6感染/人/年であった。年齢・性別調整後のアルコール消費者における発症率比（95%信頼区間）は機会飲酒者（0<グラス/日<1）”で1.31（1.01、1.70）、軽度飲酒者（男性；1<グラス/日<3、女性；1<グラス/日<2）”で1.22（0.92、1.64）、“中等度以上飲酒者（男性；3<グラス/日、女性；2<グラス/日）”で1.33（1.04、1.83）であった。アルコール摂取と感染の重症度との相関は見られなかった。喫煙、身体活動においては感染の発症率、重症度ともに相関が見られなかった。生活習慣の諸因子および呼吸器感染のそのほかの危険因子で調整後もすべての結果に変化は見られなかった。</p> <p>結論：</p> <p>健康と思われる高齢者においてはアルコール摂取のみが急性呼吸器感染症の頻度を高める危険因子であることが本研究から示唆された。しかしながら介入研究で同様の結果が確認されるまでは（本結果をもって）急性呼吸器疾患の危険低減目的でアルコール摂取、喫煙、身体活動などの生活習慣の変化を高齢者に薦めることは正当化されないと考えられる。</p>	